

ChatGPT 好むと好まざるとに関わらず、一人に一つの AI の時代がやってきました。

いつの時代も世界をひっくり返すようなモノの誕生は、憧憬や脅威など多様な興味関心を人々の中に呼び起こしてきました。有史以来、発明された驚異のツールが利用されなかったことは、一度たりともありません。古くは鉄器から始まりダイナマイト・内燃機関・原子力など人類の進歩に大きく寄与した一方で巨大な山ほどの課題を未来に積み上げています。

ChatGPT も大きな利便性と課題を生み出すに違いありません。人は、それらの課題に勇猛果敢に ChatGPT をも駆使しながら学びを積み重ねて向かっていくしかありません。

ChatGPT に

「子どもの学力格差や個性差などの多様性を活かす教室づくりとは」

と質問をしたところ、下記の反応がありました。



ChatGPT ANSWER

右上の絵は、**BING IMAGES CREATOR** が作りました。

子どもたちはそれぞれ異なる能力や個性を持っており、学力にも差があります。教室には、そうした多様性があることを前提とした教育づくりが求められています。

まず、子どもたちの学力格差に対応するためには、一人ひとりの学習に合わせた指導が必要です。授業中には、全員に同じ内容を同じスピードで進めるのではなく、個別に質問に答えたり、課題を出したりするなど、生徒の理解度に合わせた対応を行うことが大切です。

また、個性の多様性に対応するためには、生徒たちが自分らしく学べるように環境を整えることが必要です。例えば、授業の途中でペアやグループに分かれて活動をするなど、異なるアプローチで学ぶ機会を増やすことができます。また、生徒たちが自分の興味や関心に沿った学習をすることができるよう、教材や課題の選定にも配慮する必要があります。

教室づくりにおいては、生徒たちが自分自身を受け入れ、自信を持って学べる環境づくりも重要です。教師が生徒たちと対話をし、コミュニケーションを取ることで、生徒たちが自己肯定感を高め、自分の個性や能力を活かせるようになります。

以上のように、多様性を活かした教室づくりは、一人ひとりが自分らしく学べるよう、個別の対応や環境づくりを大切にすることがポイントです。 **以上 CHATGPT**

多様な子どもたちに多様に対応する、これが日々の当館での課題ですが、それが一層鮮明になりました。今回の ChatGPT の試用、少なくとも何かを考えるときには、すばらしいアシスタントの一人になることが理解できました。